

## **日本、世界のマーケット状況を踏まえ、 2人の運用者からのメッセージです**

### **【なかの日本成長ファンド】**

東京株式市場は先週末に引き続き大荒れの展開です。本日、8月5日の前場の段階でTOPIXが前日比で7%を超える下落に見舞われています。このあまりにも急激な相場の変化は、円キャリートレードと呼ばれる取引の巻き戻しであって、相場のトレンドに追随するコンピューター売買によって引き起こされています。今回の株式市場の暴落はまさに需給要因によるものです。売り一巡後に相場は落ち着きを取り戻していきます。

私たちの保有先の長期業績の見通しはしっかりとしています。相場の短期のトレードは長期の業績見通しには影響を及ぼしません。本日、なかの日本成長ファンドは、5%のキャッシュ部分をしっかりと買いポジションの新規構築に使っています。もちろん、短期の基準価額のこのような下落には、我々も心を痛めておりますが、この局面では、しっかりと買うべきと考えます。それが将来のファンドの価値の増大へ寄与するからです。

私たちは、常に一貫した長期の投資スタイルを貫いてまいります。相場は遅かれ早かれ安定局面を迎えますので、それまで、ご辛抱ください。暴落のときに投資を止めてしまっただけでは長期での資産作りが難しくなります。株価が大幅に下がったときこそ、より前向きに投資することが資産の増大には極めて有効です。我々も日々、精進してまいりますので、私たちを信じてくださいますように切にお願い申し上げます。

なかのアセットマネジメント  
運用部長 山本 潤

**【なかの世界成長ファンド】**

なかの世界成長ファンドの最近の基準価額の下落は、主として二つの要因からなっています。第一は、半導体関連銘柄の大幅な下落です。これは、米国政府の半導体製造装置や製品について海外への輸出(主として中国)が規制されるのではないか、という懸念によるものです。次期米国政権がどのような貿易政策をとるのか不透明であることは問題ですが、すでに過去に米中の貿易摩擦なども経験しているので、株式市場は過度なマイナスの反応をし続けるとも思われません。引き続き半導体に対する需要は回復基調を辿っており、堅調であると見られ、強い競争力と高い成長率の両方を兼ね備える「クオリティグロース」銘柄を厳選して投資し続けたいと考えています。

第二に、対ドル 160 円台からの急速な円高が進んだことです。なかの世界成長ファンドは海外の株式投資分についてヘッジをしない方針で臨んでいるために、円高は基準価額にとってマイナスとなります。今回の円高のきっかけとしては、7 月末の日銀のやや予想外の「金利引き上げ」、という決定があります。アメリカの中央銀行(FRB)は今後「金利引き下げ」をするとみられているので、日米の金利格差がこれまでよりも縮小すると考えられたのでしょうか。しかし、ドル円で見たとときの円の価値は金利差だけでは決まらず、日本の貿易収支が赤字であることなど、構造的に円からドルへ資金が流れているというポイントもあります。

歴史的にみると、世界の株式市場は 3-5 年に一度 10-20%程度の下落を経験しながら、長期的には右肩上がりの成長を続けています。現在は、半導体関連銘柄が 20-25%程度直近の高値から下落しており、ハイテク銘柄で構成される米国ナスダック株式指数もピークから 10%強下落した水準にいます。こうした調整局面で優良銘柄を比較的低い株価で組み入れてゆくことで長期的なパフォーマンスが上がると考えているので、当ファンドは引き続き世界中の強い競争力と高い成長性が両立している優良株に長期投資を続けたいと考えています。今後ともぜひ「なかの世界成長ファンド」のご愛顧をよろしくお願いいたします。

なかのアセットマネジメント  
運用部 シニアポートフォリオマネージャー 居林 通

**【ご留意事項】**

この資料は情報提供を目的として、なかのアセットマネジメント株式会社によって作成されたものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動します。その結果、購入時の価額を下回ることもあります。

また、投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。

**【投資信託に関するリスクについて】****基準価額の変動要因**なかの日本成長ファンド

・ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。主な基準価額の変動要因は「価格変動リスク」「信用リスク」「流動性リスク」「集中投資リスク」などがあります。したがって、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

・信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆さまに帰属します。

なかの世界成長ファンド

・ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。主な基準価額の変動要因は「価格変動リスク」「信用リスク」「為替変動リスク」「カントリーリスク」「流動性リスク」などがあります。したがって、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

・信託財産に生じた利益及び損失は全て投資者の皆さまに帰属します。

商号：なかのアセットマネジメント株式会社（設定・運用を行います）

金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第 3406 号

加入協会：一般社団法人投資信託協会